

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年11月2日 (2017.11.2)

【公開番号】特開2016-65899(P2016-65899A)
 【公開日】平成28年4月28日 (2016.4.28)
 【年通号数】公開・登録公報2016-026
 【出願番号】特願2014-193108(P2014-193108)
 【国際特許分類】

G 1 0 L 13/07 (2013.01)

G 1 0 L 13/06 (2013.01)

【F I】

G 1 0 L 13/07 C

G 1 0 L 13/06 2 3 0 A

G 1 0 L 13/06 2 1 0 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成29年9月21日 (2017.9.21)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 8】

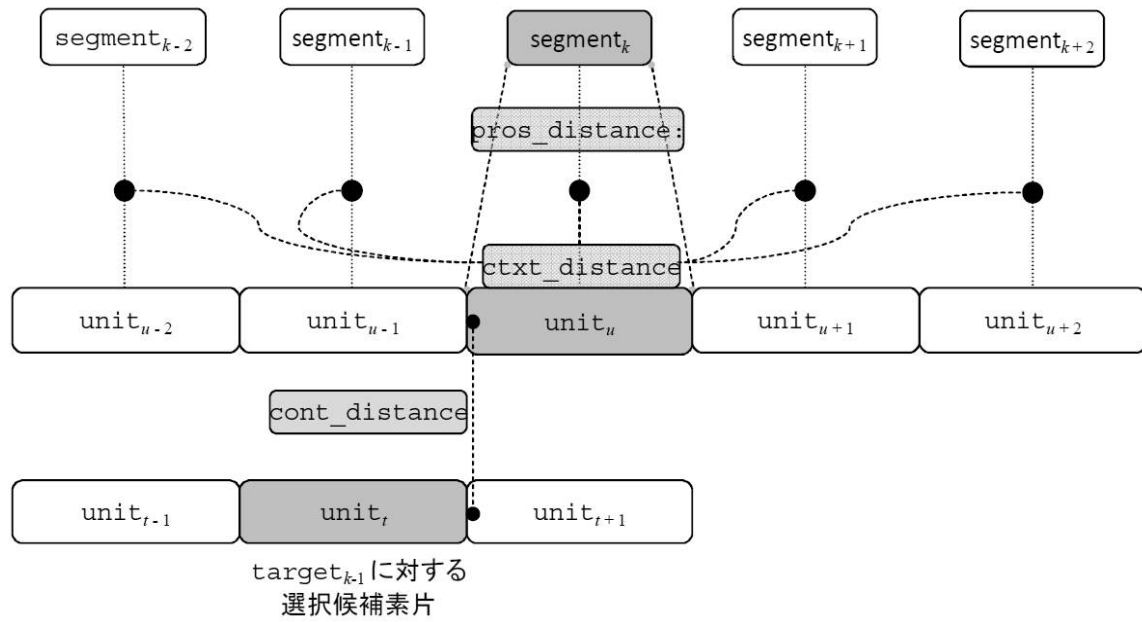
図 2 において、素片リストアップ部 2 0 7 a は、素片評価部 2 0 8 a に対して、処理対象素片データの韻律データ（以下「素片韻律データ」と記載する）と処理対象セグメントデータの目標韻律データ 2 0 1 との間の韻律コストを算出させ評価させる。具体的には、素片評価部 2 0 8 a は、処理対象セグメントデータの目標韻律データ 2 0 1 と処理対象素片データの素片韻律データとの差に基づいて、韻律コストを算出する。韻律コストは、目標韻律データ 2 0 1 と素片韻律データの距離を示す。図 3 に示される pros_distance が、韻律コストを示しており、処理対象セグメントデータ segment_k の目標韻律データ 2 0 1 と、処理対象素片データ unit_u の素片韻律データとの差に基づいて算出される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 2】

本実施形態によるシステムは、図 1 および図 2 の各処理部の機能を搭載した音声合成プログラムを、ROM 5 0 2 から RAM 5 0 3 に読み出して CPU 5 0 1 が実行することで実現される。そのプログラムは、例えば外部記憶装置 5 0 6 や可搬記録媒体 5 1 0 に記録して配布してもよく、或いは 通信インタフェース 5 0 8 によりネットワークから取得できるようにしてもよい。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【図 3】



【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 5】

